# 辰巳小だより

江東区立辰巳小学校
校長　松下　由美子
学校だより　第４号
令和５年６月３０日
（ホームページアドレス）http://tatsumi-sho.koto.ed.jp

## 道徳授業地区公開講座を行いました

副　校　長　　楢本　泉

６月２３日（金）に道徳授業地区公開講座を実施しました。５校時には全学級で道徳授業を公開し、その後講演会と意見交換会を開催しました。講師の松林院住職　　様から「お坊さんの子育て」という題でご講演をいただき、保護者や地域の皆様より活発な意見交換がなされました。

辰巳小学校では、「考え、議論する道徳」を目指し、日々授業を実践しています。児童が主題について自分ごととして主体的に思考し、友達と対話することで良い考えを取り入れ、相互に考えを深める、ということを目指しています。

ある日の２年生の道徳の授業では、「本がかりさん　がんばっているね」という教材で授業を行いました。「勤労・公共の精神を培う」具体的には「皆のために働くことで皆に喜ばれたり、感謝されたりすることに気付き、皆のために進んで働こうとする態度を養う」というのがねらいです。教材では「本係の仕事をやっていた主人公が、休み時間他の友達が外遊びに行ってしまうのを見て、一時的に仕事が嫌になってしまう。だが、ある日の帰りの会で、クラスの友達から係の仕事について褒められ感謝され、またやる気になる」という話です。

授業の終盤、児童は自分の生活を振り返り、主人公と重ね合わせ係の仕事について考えました。その後の班での話し合いで「自分は友達に褒めてもらいたいから、いつも本を整理しようと思う」「でも、係の仕事は人から褒められるためにやるんじゃないと思う」「私も賛成です。」等、意見が交わされました。児童は、「教材のねらい」を超えて、本質的に働くことの意味を考え、議論していました。哲学的に「働くとはどういうことか」考え、「お天道様が見ているから、誰も見ていなくても、常に一生懸命働きたい」という意味の内容を話し合っていたのです。

哲学者の林竹二は１９７０～８０年代を中心に全国の小学校で哲学の授業を行いました。例えば「狼に育てられたアマラとカマラは人間と言えるか（人はいかして人間になるか）」ということについて、小学生に投げかけ、自分の頭で考えさせようとしました。

また、アイルランドのホーリークロス男子小学校では、ケヴィン・マカリーヴィー校長が哲学の授業を行っています。例えば「暴力を受けたら暴力を振るってよいか？」「死別とはどういうことか？」等、徹底的に考えさせます。児童が哲学対話を通して交流し、行動が変容していく姿が『ぼくたちの哲学教室』という映画に表出されています。

本校でも、児童が本来もっている力を引き出し、仲間と交流することで、自分で考え行動する人を育てていきたい、と考えています。